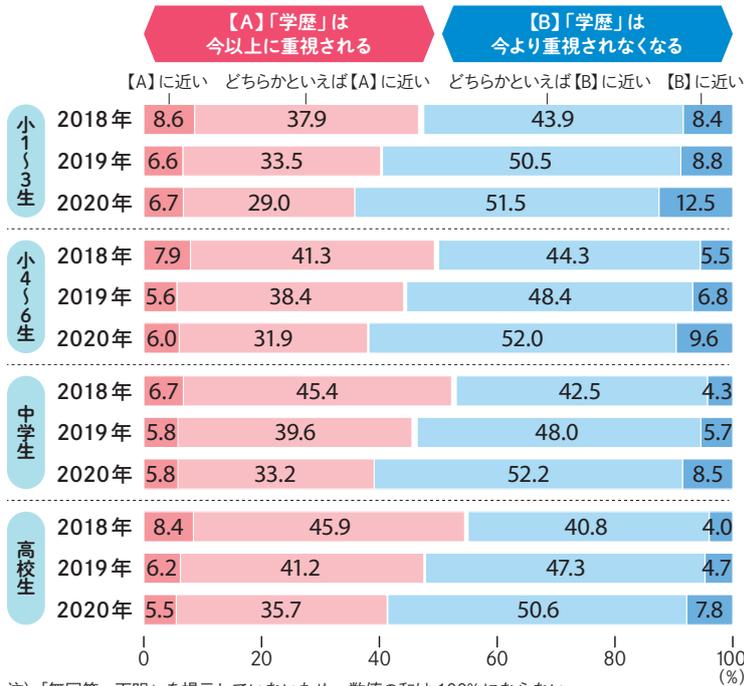


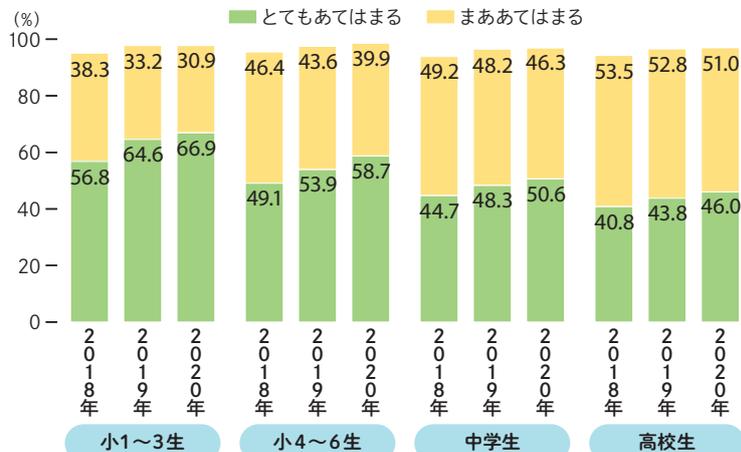
保護者の「学歴」に対する考えに変化が。 思考力などの習得を望む傾向に

ピックアップデータ 東京大学社会科学研究所・ベネッセ教育総合研究所
「子どもの生活と学びに関する親子調査」(*)

データ1 「学歴」に対する保護者の考え方



データ2 「知識以外の多様な力(思考力・判断力・表現力など)を身につけさせたい」の保護者の肯定率



新学習指導要領の実施や教育のICT化など、学校教育が変革期にある中で、子どもの教育に第一義的責任を有する保護者は、教育にどのような意識を持っているのか。東京大学とベネッセによる、同一の子どもと保護者に継続して実施している調査の結果をしてみる。

まず着目したのは、保護者の「学歴」に対する認識の変化だ。「『学歴』は今以上に重視される」と「『学歴』は今より重視されなくなる」のどちらに考えが近いか尋ねた項目で、「『学歴』は今より重視されなくなる」に「どちらかといえば近い」または「近い」と回答した割合が、すべての学齢で年々高まっている(データ1)。2019年以降の調査では、「『学歴』は今より重視されなくなる」の割合が、すべての学齢で5割を超える結果となった。一方、図示していないが、「できるだけよい大学に入れるように成績を上げてほしい」の肯定率は、2019年から2020年にかけて、すべての学齢で低下していた。

また、保護者が子どもに身につけさせたい資質・能力にも変化が見られる。「知識以外の多様な力(思考力・判断力・表現力など)を身につけさせたい」に「とてもあてはまる」と回答した保護者の割合は、すべての学齢で年々増加しており、保護者が知識以外の多様な力を重視する傾向が強まっている状況が見取れる(データ2)。

コロナ禍は、これからの時代が予測困難であることを実感させた。それは、保護者の子どもの教育への意識にも影響を与えたのではないだろうか。

* 東京大学社会科学研究所とベネッセ教育総合研究所が共同で立ち上げた「子どもの生活と学び」研究プロジェクトによる調査。2015年から毎年、小学1年生から高校3年生までの親子約2万組を調査している。